

様式13

### 会派視察研修計画書

令和元年 5月20日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ

代表者名 石川 輝彦

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	神谷 悟 ・ 杉浦 文俊 ・ 石川 輝彦	
日 時	令和元年 7月22日（月）～ 令和元年 7月24日（水）	
視 察 先	7月22日（月） 青森県八戸市 23日（火） 青森県むつ市 24日（水） 青森県弘前市	
研 修 内 容	八戸市…八戸圏域公共交通計画について むつ市…かわまちづくりについて 弘前市…市民参加型まちづくり1%システムについて	
日 程	7月22日（月） 青森県八戸市 …13:30～15:00 23日（火） 青森県むつ市 …10:00～11:30 24日（水） 青森県弘前市 …10:00～11:30 *詳細は別紙参照	
交 通 手 段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機) <input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

## 会派視察研修報告書

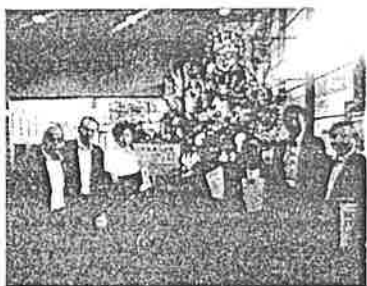
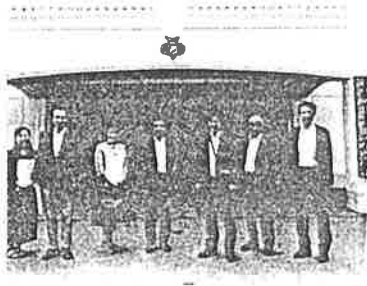

令和 元年 8月 2日

碧南市議会議長 様

会派名 市民クラブ  
代表者名 石川輝彦

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 3人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	石川 輝彦 ・ 神谷 悟 ・ 杉浦 文俊	
日 時	令和 元年 7月22日（月）～ 7月24日（水）	
視 察 先	青森県八戸市 ・ 青森県むつ市 ・ 青森県弘前市	
研修内容	八戸市・・・八戸圏域公共交通計画について むつ市・・・かわまちづくりについて 弘前市・・・市民参加型まちづくり1%システムについて	
視察先面会者 又は講師名等	八戸市・・・都市整備部 石橋正一・議会事務局 北村政則 むつ市・・・青森県下北地域県民局 本間康弘 都市整備部 柳谷真吾・議会事務局 金澤寿々子 弘前市・・・市民生活部 中村ゆかり・議長 清野一栄 他	
 <<八戸市>>	 <<むつ市>>	 <<弘前市>>

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

令和 元年 8月 2日

議員氏名 石川輝彦

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和 元年 7月22日（月）～令和 元年 7月24日（水）
- 2 視察先 青森県八戸市・むつ市・弘前市
- 3 視察の種類 会派視察（市民クラブ・公明党・みらいクラブ合同視察）
- 4 視察の成果等

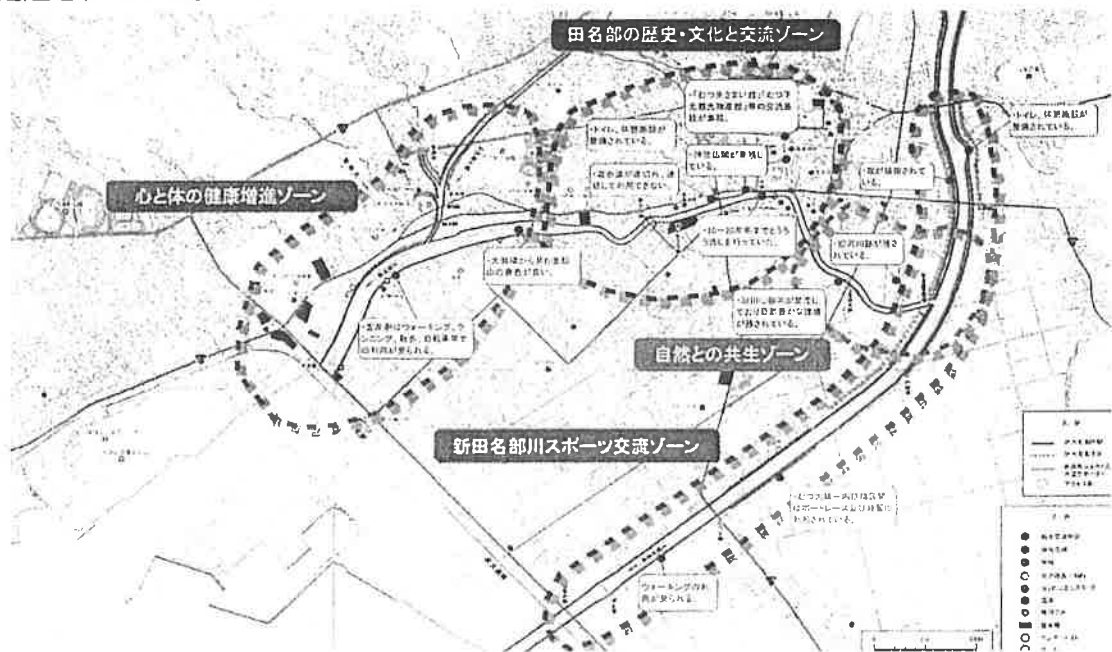
#### 【八戸市・・・八戸圏域公共交通計画について】

- ・高齢者による重大な交通事故が増加する中、更なる公共交通機関の取り組みが必要となってきた。圏域による広域的な交通機関の取り組みを実践されている八戸市の事例を参考にし、視察を行った。
  - ・八戸市の地域公共交通に関する近年の取り組みは、平成19年3月に策定された「八戸市公共交通再生プラン」からスタートし、八戸市地域公共交通会議を設置し、市内幹線軸路線の設定や八戸駅を中心とした等間隔・共同運行化などを行ってきた。
  - ・その2年後の平成21年3月には、「八戸市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市内幹線軸路線における高頻度運行や上限運賃の実証実験と本格実施、中心街ターミナルバス停留所の設置、公共交通アテンダント「はちこ」の活動等を展開し、「第2次八戸市地域公共交通総合連携計画」の策定へ発展されていた。
  - ・平成28年3月には、「八戸市地域公共交通網形成計画」を策定し、市内幹線軸路線10路線ウィ12路線に、そして今では「八戸圏域地域公共交通網形成計画」を平成31年1月に策定され、定住自立権の事業として広域的（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）に展開されている。
  - ・まず初めの取り組みである共同運行化では、これまで市営バスと民間バス2社の計3つのバスが運行していたが、民間バス2社の「競合」から「共生」へと転換していく中で、バスダイヤの平準化に成功し、便数を減少させたが、利用者の増加に繋がったとのことである。この事業をパイロット事業とし、幹線軸への適用拡大が出来たとのことである。
  - ・現在取り組みを始めている「圏域バス」は八戸市と圏域7町村を結び、八戸市を中心に放射状に形成しており、これらを「広域路線」と定義し、計16路線で運行されている。また、乗車運賃にも手を入れており、多くの住民への利便性向上に繋がるよう、八戸市内の上限運賃を300円、圏域内を上限500円としていた。
- ◇碧南市から近隣市に繋ぐ路線は、北方向に向かう電車の名鉄三河線でしかなく、東西への手段がない。市民要望の多い「公共交通バス」の復活に向けて、引き続き研究・提言を行っていきたい。



【むつ市・・・かわまちづくりについて】

- ・碧南市では堀川に特定外来生物スバルティナ属が発生し、拡散防止と根絶を目的とした事業が入ることとなった。この際、河川の浄化・美化を目的とした河川を活用したまちづくりを検討したく、視察を行った。
- ・むつ市では、市街地を経て陸奥湾に注ぐ2級河川の「田名部川」が流れており、昭和30年の洪水を契機に市街地を迂回する放水路として「新田名部川」が完成した。古くは江戸時代に物資輸送の要路として活用されていたとのことである。
- ・今回の事業は、青森県としての事業として国に交付金事業として提案し整備してきた事業であり、主要な事業は国が50%の2億円、県が50%の2億円が総費用であり、それに付随して市が単独費用として事業化したものは4000万円のみであるとのことであった。
- ・かわまちづくりを事業化した経緯としては、町内会からの要望により、平成7年に遊歩道を整備したことがきっかけとなり、平成19年に策定した「むつ市長期総合計画」の基本方針に「地域の個性を活かした特色あるまちづくり」の中に「水辺環境の整備」、そして平成22年には「むつ市都市計画マスタープラン」の都市づくりの目標に、「豊かな自然を子孫に残す、自然環境の保全・維持を目指す」とし、地域別構想では「田名部川沿いの環境維持、魅力の向上を目指す」とする中で、事業を進めて来られている。
- ・今回の事業の基本コンセプトとして、「田名部の自然・歴史・まち・かわを結ぶことで、ふるさとの新たな魅力を生み出し、みんなの心と体の健康を育み、笑顔をつくるかわまちづくり」とし、「心と体の健康増進ゾーン」、「田名部の歴史・文化と交流ゾーン」、「自然との共生ゾーン」、「新田名部川スポーツ交流ゾーン」の4つのゾーニング計画を掲げ、事業を推進されていた。



- ・このかわまちづくりが国の交付金事業として認められたポイントは、①実現性、②資源、③地性、④熱意、⑤管理方法、⑥関連計画の6つのポイントが合致し事業であったとのことである。
- ・今事業のメリットとしては、国からの交付金により地域の要望が解決でき、水辺の利用の促進できた。しかし、5年間の事業としなければならず、全ての要望を解決できずにいるとのことである。
- ◇碧南市においては、2級河川どころか1級河川の矢作川すら整備が進んでおらず、利活用が出来ていない状況にあると感じる。碧南市の自然や歴史・文化を未来に残すため、さらに研究を進めていく必要がある。

【弘前市・・・市民参加型まちづくり1%システムについて】

- 碧南市に関わらず、全国で市民とともに作り上げていくまちづくりが進んでいる。碧南市にも補助規定があるものの、更なるステップアップを目指した市民協働となる仕組みを研究するため、視察を行った。
  - 弘前市では財源を「個人住民税の1%相当額」を公募型補助金制度を創設し、取り組まれている。これは、市民が自ら実践するまちづくり・地域づくり活動を金銭面で支援する事業であり、平成22年4月に就任した前市長が選挙マニフェストで掲げ、創設されている。
  - この制度は、市民の活動のきっかけづくりや活動内容の充実、発展のために創設されたもので、防災や防犯、健康づくり、子育て等の地域の活性化や課題解決を目指すものである。
  - 事業採択は、15名で構成する「まちづくり1%システム審査委員会」を経て、決定する。応募から事業採択までの流れは、市民が「事業企画書」を提出し、その後、まちづくり1%システム審査委員会による「事前質問・回答」等を行い、1事業15分間の「公開プレゼン」、1事業20分間の「公開審査会」を経て、審査の結果が通知される仕組みとなっている。公開審査会は採点方式により可否を決定しており、100点満点中60点以上が採択、60点未満が不採択であり、60点以上を取っても、平均点が3点未満の審査項目がある場合は不採択となり、これまでも不採択事業は数多くあるとのことであった。
  - 採択された事業は、年に1度の事業報告会とパネル展が実施されており、市民にも公開されている。
  - これまでの実績としては、町会が行った「放棄地の環境整備と美化活動」や「大仏公園紫陽花まつり」、「南城西町会加入と活動参加促進のためのパンフレット製作事業」、「常盤野町会防災活動」等が行われている。またNPOや市民活動団体が行った「弘前城リレーマラソン」や「電車とバスの情報誌“ホット”Vol2発行事業」等がある。
- ◇碧南市にも公益活動の補助制度はあるもの、活用されている団体は市民活動団体である。これを各町内会にまで発展させれば、もっと市民協働による市民活動が進んでいくと感じる。もっと市民活動という裾のを広げ、市民協働によるまちづくりを活性化していく必要がある。



☆視察先の“おもてなし”が感じられる  
1枚の写真を添付します。  
3市で対応して下さった皆さまに  
感謝申し上げます。



## 視察研修成果報告書

令和元年 8月 2日

議員氏名 神谷 悟

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

#### 1 期間

・令和元年 7月 22日（月）～ 7月 24日（水）

#### 2 視察先

- ・青森県八戸市（八戸圏域公共交通計画について）
- ・青森県むつ市（かわまちづくりについて）
- ・青森県弘前市（市民参加型まちづくり1%システムについて）

#### 3 視察の種類

- ・3会派合同視察研修（市民クラブ・みらいクラブ・公明党）

#### 4 視察の成果等

##### ★目的

○私たち3会派（市民クラブ・みらいクラブ・公明党）は、上記の日程で視察を実施させていただきました。将来の碧南市をしっかりと見据え、市民サービスの向上を目指すため、参考になる点については一般質問や委員会等で提言を実施し、施策に反映していただけるよう取り組んでいきたいと考えています。 【八戸市視察風景】

##### ◆テーマ：八戸圏域公共交通計画について

○内容（八戸市⇒1日目）

八戸市での公共交通事情の現状として、バス交通では、市営バス（市営）、南部バス（民営）、十鉄バス（民営）の3事業者が運行していました。また、八戸市と圏域7町村を結ぶバス路線網は八戸市を中心に放



射状に形成されていきました。

運行に対する事業は、八戸市が約2,000万円強、他の7町村は現在基金（500万円～600万円）を取り崩しながら運営をしていました。

【八戸市議場にて】

乗客を増やす施策としては、圏域内の路線バス運賃初乗り150円・50円刻み、上限500円に改定（八戸市内は上限300円）

- ・300円で乗り放題（まちパス300）
- ・2事業者2経路のダイヤの見直しを実施し、「競合」から平準化へ
- ・日帰り路線バスパックの企画・商品化  
（中心街と八戸駅を起点に2時間～半日で楽しめるコースを設定、観光・食事・健康等と絡めて地域の活性化につなげている）



### 【所感】

今回の視察の目的としては、本市における「くるくるバス事業」「ふれんどバス事業」においてメリット・デメリットやまちの活性化に向けてどのような効果があるのか、調査したく実施させていただきました。

碧南市を運行している「くるくるバス」においては、現在誰が乗っても無料であるが有料にしてダイヤの増便、運行時間の延長等をしてほしいとのご要望もあり、住民の「生活の質」の向上のためには送迎に頼らず通学できるまた、安心して通院できる移動手段の向上も今後の高齢化社会を見据えると必要であると感じました。

観光については、「竜の子街道」事業にバス運行を取り入れることも非常に良いと考えます。4市の観光スポット等を回遊し、食事をからめて地域の活性化のきっかけになるような取り組みを提案したいと思います。

将来は、IT、ITC化の流れもしっかり注視する必要性もありますが、小銭を持たずに気軽に利用できるICカードの導入も検討していくことも重要である考えます。

### ◆テーマ：かわまちづくりについて

【むつ市視察風景】

○内容

(2日目)

むつ市では、田名部川及び新田名部川をまちづくりの一環として、安全に利用できる管理用通路等、植樹、ベンチを創出し、田名部川とまちのネットワークを構築することで、地域活性化を推進されていきました。

(整備内容)

- ・管理用通路、階段、親水護岸（県）
- ・案内看板、植樹、ベンチ設置（市）

(市民の利用用途)

- ・散歩やジョギング、ボート練習や大会、イベント



(事業概要)

・総予算4億円 補助金 (国1/2、県1/2、市として4,000万円)

【田名部川現地視察の様子】

【所感】

むつ市かわまちづくりについて視察研修をさせていただきましたが、視察の目的として、碧南市は矢作川河川敷、堀川河川敷と有効活用できる場所があり、何か参考になる点があれば提言していきたいと考えました。一級河川である矢作川については、矢作川リフレッシュ事業として、桜づつみを整備し、堤防の強靱化へつなげることができましたが、堤防沿いは非常に景観も良く、自然も豊かであるためウォーキング・散歩・ジョギング・サイクリングなどを楽しめるエリアとして有効活用していくべきであると考えます。



堀川については、名鉄廃線跡地を利用したレールパークを円でつなぐ遊歩道等に活用し、レールパークの更なる利便性向上につなげていきたいと思います。

◆テーマ：市民参加型まちづくり1%システムについて 【弘前市視察風景】

(岩見沢市⇒3日目)

弘前市が実施している「市民参加型まちづくり」について、視察をさせていただきました。個人市民税の1%相当額を財源に、市民自らが実践するまちづくり、地域づくり活動に係る経費の一部を支援する、公募型の補助金でした。



事業採択の可否を決定する機関は、「まちづくり1%システム審査委員会」の審査を経て決定。この事業を円滑に進めるために設置した組織で、学識経験者や団体推薦者、公募市民などの15名で構成。(学識経験者2人、団体推薦者8人、公募委員3人、その他市長が必要と認める者2人)

○実績

- ・平成29年度実績⇒応募事業数 82件
- 採択事業数 69件
- 交付決定 69件 (2,475万7千円)



- ・平成30年度実績⇒公募事業数 69件
- 採択事業数 65件
- 交付決定 65件 (2,272万4千円)

【弘前市市役所ロビーにて】

**【所感】**

町内会やNPO、学生やボランティア団体をはじめとする市民活動団体などが、自らの地域を考え、自ら実践することにより、地域課題の解決や地域の活性化につながる活動支援し、市民力による魅力あるまちづ



くりの推進を図っており、素晴らしい取り組みであると感じました。碧南市では、いろいろな事業に対して、個々に補助金を出し支援していますが、このようにひとつの事業にまとめて実施することも事業のシンプル化・見える化にもつながるため検討していくべきであると思いました。

今回の研修、本当にありがとうございました。

神谷 悟

## 会派視察研修報告書

令和元年 8月 2日

議員氏名 杉浦 文俊

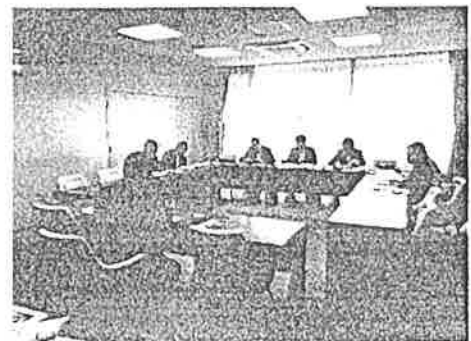
視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期間 令和元年 7月 22日（月）～令和元年 7月 24日（水）
- 2 視察先 青森県八戸市、青森県むつ市、青森県弘前市
- 3 視察の種類 市民クラブ会派視察
- 4 視察の成果等

### 《八戸圏域公共交通計画について》・青森県八戸市

- ・八戸市は平成21年に八戸圏域定住自立圏を形成し、各種連携事業を展開していく中、地域公共交通については「第2次八戸圏域公共交通成計画」に基づいて路線バス上限運賃化などの取り組みを行ってきた。そして平成29年に中核市に移行し、8市町村（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷町、おいらせ町）と連携して圏域全体の発展を目指す取り組みとして、公共交通の観点では相互に連携役割分担を図りながら交通政策を作成した。その中、市単独路線では赤字であった為、国交省の活性化再生法に基づき、公共交通網形成計画を作成した。地域間幹線路線は一日の規定本数以上であれば国から補助金が（上限9/20）が出る為、広域連携を行った。
- ・主な取り組みとして、八戸駅と市街地を結ぶ幹線は、時間帯によって運行本数にばらつきがあり、便数の多さが利便性に繋がらなかった為、交通事業者間の運行ダイヤの調整をし、10分に一便と等間隔にする事で、利用者は時刻表を見ずとも利用でき、結果228便から182便となったが、利用者は増える事になった。運転手不足解消の為に、事業者や自動車学校と連携し、説明会や運転体験を実施して運転手確保への取り組みを行っている。
- ・路線バス上限運賃政策として、初乗り150円から50円刻みとし、八戸市内は300円、圏域16路線は500円を上限とし、最大で1250円が500円となった。また市内300円乗り放題といった近距離利用者対策も併せて行う事で、利用者数は16,600人から19,500人と減少傾向が一転した。その為、平成23年から25年までの実証実験の際は、赤字分を補填していたが、本格実施以降は利用者の増加に基づき、補助の必要はなくなっている。
- ・また、帰り路線バスパックや路線ごとに車体や



バス停を色付けるなど碧南市でも似たような取り組みがみられた。

- ・広域連携を行う以前から、ゴミや水道関係で連携していた経緯もあり、協定も結んでいた下地があった為、今回の公共交通網計画もスムーズだったと説明があった。碧南市においては、竜の子街道で4市が連携している為、この機会に広域連携バスの可能性を見出すことも可能ではないかと考えられる。他市にも行くことができる事が、市民の願いと考えるので、今後も引き続き実現に向け取り組んでいきたい。

#### 《かわまちづくりについて》・青森県むつ市

- ・かわまちづくり事業の総予算は、社会資本整備交付金4億円（国1/2、県1/2）と、むつ市4千万円（単独）からなり、平成29年から令和3年までの工期となっている。経緯としては、県の環境整備として平成8年に遊歩道の舗装と公園の整備、平成28年に河川改修をした後、地元町内会から下流の整備の要望があった。県はかわまちづくりの制度をみすえ、むつ市主体のワークショップを開くこととなった。
  - ・支援制度登録が認められた要因として、実施要綱の中のキーワードに沿っているかが問われ、おおむね5年で整備できる「実現性」があること。山、神社仏閣などといった「資源」があること。ワークショップを開いて地域の声を反映させる「知性」や自分たちが作りあげる「熱意」があること。「日常」的に使われているか。あらかじめ適切な「管理」方法を定めておくことが必要となる。
  - ・整備内容として、市は標識看板、植栽、ベンチなどの整備、県として管理用通路や護岸の整備を行っている。
  - ・メリットとして、補助金を使って地域の要望を実現できる点、地域と共に計画するので完成後は利用促進につながる点があげられ、デメリットとしては、5年での整備という条件があるので、ワークショップを開いても全てがかなえられるものではない事があげられる点や、河川の整備といった河川整備や利用上の安全面にしか補助の対象にならないので、課題面として利便性の向上面のトイレや照明などは単独で整備しなければならない点やランニングコストは市が請け負う点があげられる。
- 水に囲まれる碧南市としては、国県と連携しての環境整備や、今回視察したむつ市や隣の高浜市ではレガッタを開催しているので、碧南独自のスポーツを開催できるように取り組んでいきたい。



#### 《市内参加型まちづくり1%システムについて》・青森県弘前市

- ・市内参加型まちづくり1%システムは市長マニフェストにより導入されたもので、個人市民税の1%相当額を予算とする市民公募型の補助制度である。制度の流れとして、行政は地域住民が地域の課題を見つけその解決策を企画立案するにあたってどうしたらこの制度に合致するかを一緒に考えながら計画していく。例えば地域の祭りを復活する際には、楽しむだけではなく、若い世代や子供を巻き込み、単発で終わらず今後継続するにはどのようにするかまで立案する。その後、審査委員会の審査を経て決定される。応募できる団体や事業や経費にも制限があり、年に3回募集期間がある。補助額の上限は50万円。

- ・審査委員会は学識経験者、団体推薦者、公募委員等15名で構成され、応募団体のプレゼンテーションに対しての質疑や採点はもちろん事業実施に向けた提案を行い、最終的に事業採択を決定する。
- ・実績として平成23年は23/44（交付決定/応募事業数）から始まり平成30年65/69（交付決定/応募事業数）と増加傾向にある。その間に1%システムの事業が市の政策に取り入れられた事例もある。
- ・課題として、事業の継続申請するためには、前年度よりも成長した事業としなければならぬため、継続も簡単ではない。事業を継続して行う為の活動資金や人材不足など自立して活動する為の仕組みを作る事が挙げられる。
- ・碧南市も様々な補助対象事業があるが、補助額が低い制度や継続期間の定められているものがある。市民のアイデアが市の政策に繋がる事例もあるため、市民の取り組みが反映しやすいシステムを考えていきたい。

